

### この時期の発達過程

クレヨンを持たせてあげると丸が描けたり、十字が描けたり、自由に描かせると「パパとママ」「お花」など、意図を持って絵もかけるようになってくる頃。

見立て遊びや再現遊びも大好きで、ブロックや積み木などで、自分でお城やタワーに見立てながら作って遊んだり、おままごとや人形遊びも、身近なお母さんがいつもしているような事を真似しながら再現したりして遊びます。様々な素材を用意してあげると、想像力や発想力をふくらませてあげられるでしょう。

また3歳近くになると、見たもの、聞いたもの、触ったもの、嗅いだもの、味わったものなど、五感を使って感じたものの情報を概念化しながら自分の中にすっきり分けて整理していききたいという衝動に駆られる「感覚の敏感期」というものが訪れます。例えば、道端に落ちている石を大きい物から小さい物へと順番に並べたり、同じ絵柄のお菓子の袋を対にして並べていたり、ビーズを同じ色に仲間分けをして遊んでいたりと、お子さんからそのような姿が見られることはありませんか？概念の形成を援助するものとして様々なものがありますが、ご家庭でも気軽に取り入れやすいものとしては、同じもの同士を対にするペアリングという遊び。

赤、青、黄色などの色付きのカップに、カップと同じ色のビーズを入れていくような遊びでも赤、青、黄色など色の概念が形成されますし、巾着袋などの中に、たわしやスプーンや綿など、身近な様々な感触の素材を2つずつ用意して入れて置き、中身は見えない状態にして、手で触りながら感触だけで同じものを探しながら当てていく遊び。「ざらざら」「とげとげ」「つるつる」「ふわふわ」など、様々な概念が形成されていきますし、ゲーム感覚で楽しめるのでおすすめです。

### この時期のお悩み

言葉がどんどん増えてきて、毎日本当にたくさんの言葉を吸収している時期の今。わが子が急に使って欲しくないような言葉を使うようになってしまい悩んでいるという方もいらっしゃるかもしれません。例えば「うるさい！」「あっち行って！」「バカ！」など、他の人が聞いたら不快になるような言葉は、特に外では使って欲しくないと親としては思ってしまうですね。そんな時はどうしたらいいのでしょうか。

親としては、わが子が乱暴な言葉を使っているのを聞くと「うるさいじゃないでしょう！」「そんな乱暴な言葉は使えんじやありません！」などと叱りたくなってしまったり、頭ごなしに否定するのではなく、やはりまずは「うるさい」とか「バカ」と言ってしまうお子さんの根っこにある想いに共感するという意識したいものです。「うるさい！」と言ってしまったのは、もしかしたらせっかく集中して取り組んでいたのに話しかけられた事で考えが乱されてしまって困っているのかもしれませんが、「バカ！」と言ってしまったのは、自分の気持ちを分かって貰えなくて悔しかったのかもしれませんが。

そんな時は、「せっかく集中していたのに邪魔しちゃってごめんね」「ママに分かって欲しかったんだね。」など共感した上で「そういう時は、集中しているから静かにして言って貰えたら伝わるよ。」「バかって言われたらママも悲しい気持ちになるよ」など、具体的な表現方法や伝え方を示したり、それを言われた相手はどんな気持ちになるのかなども具体的に伝えながら声掛けをしていけると良いですね。また、もしかしたらお子さんにとっては今はその言葉が単に「ブーム」になっているだけ、という可能性もあります。その場合は親がその言葉に対してあまり過剰に反応(注目)せず、ブームが過ぎるのを待つのも一つですね。そしてやはり一番大事なのは、子どもに欲しくない言葉は大人が使わないということ。もちろん親以外からお友達や兄弟、テレビなど、様々なところから言葉を吸収しているので避けられないところもありますが、子どもは、良いも悪いも周りにあるものはそのまま吸収してしまいます。お子さんにこういう話し方をして欲しいな、と思うような話し方で語りかけてあげましょう。

### 井上エリ

子どもの心の根っこを育むcocorone主催。アドラー心理学とモンテッソーリ教育を活かした子育て講座をオンラインで開催中。また、自身の保育士経験を活かしながら保育士向けの研修も行っている。アドラー勇気づけ講師、モンテッソーリ教師、8歳と1歳の女の子と男の子のママ。インスタグラム、ブログも更新中。



STAGE 15  
(2歳8か月  
~2歳10か月)



保育園がつくる  
子育てサブスクリプション

パッケージ紹介

## 1 どんぐりころころ (ぱぱ・まま・こども) スロープ大 (こまむぐ社)

坂道をコトコトくるくと歩く姿に一目ぼれ。

「どんぐりぱぱ」と「どんぐりまま」が一緒によ〜いドン！魔の2才と言われることのあるイヤイヤ期の真っ最中ですが、子どもなりに自分のやりたいことが上手にいくかどうかで葛藤しているのです。そのイライラを不思議と払拭してくれるのが“落ちるおもちゃ”。繰り返しコトコトコト・・・と自分の手でどんぐりをスタートさせて眺めるうちに、ニコニコ笑顔が戻ります。「ママと一緒にやろうよ！」と幸せタイムが過ぎませぬ。



## 2 ぞうさんの組体操 (ハバ社)

12cmの大きめのぞうさんを小さな手でよいしょと掴みます。空間認知力を育てている真っ最中の2才は、長く並べたり高く積んだりが大好き。パターンカードを見てまずは大人が積んでみてください。真似っこできるかな？実は「縦」「横」の方向を互い違いに組み合わせるように積み上げるのは、大人が思っているより難しいことなですね。チャレンジすることを誘ってみても、もしかすると自分の思うように長く並べ続けるかもしれません。けれど、それでもOK！指先を使ってきれいに揃えることも「楽しく遊ぶ」中でちゃんと器用さは育っています。



## 3 マイファーストモザイク (レナ社)

大きなボタンのようなステッキを5×7の35個の穴にはめ込んで絵を完成させる構成あそびが楽しめます。

付属のカードの絵に合わせてパズル感覚で色を当てはめて遊ぶのもよし、カードなしで自分の思うように全部埋め尽くすのもよし。指先に力を込めてめくるようにステッキを取り外すのも他のおもちゃにはない指先の動きです。子どもの手で扱いやすいサイズが子どもの「できた！」を引き出しますね。

※ (ステッキを口に入れることは危険ですのでお気を付けてください)



## 4 六面体パズル・4pcs・動物園 (セレクトタ社)

4ピースのサイコロ積み木から、9種類の動物イラストが完成する六面体パズル。裏返して右にクルリン、横の面を上に向けなおして左にクルリン。同じ色がヒントになったり、「あ、しっぽじゃない？」という大人の言葉がヒントになったり、たった4ピースと思っても子どもにとってはなかなかのお仕事です。4個の正方形のピースをくっつけることで、大きな正方形になること自体が2才の好きな「揃える」行為。集中してチャレンジして、完成したときの喜びは大きいですね。



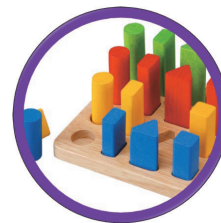
## 5 フィッシングパズル (エド・インター社)

魚釣りあそびとパズル遊びが一つになった楽しいおもちゃです。9種類の海の生き物がモチーフのパズルを、磁石の付いた釣り竿を使って釣りあげます。ほどよい重さがあることで釣れた時の手ごたえが嬉しさを倍增！プラプラと揺れる紐を思うように操作するのは結構難しいんです。「ママにも釣らせて」と思わず竿を借りたくなりますよ。



## 6 幾何学ペグボード (プラントイ社)

長さ、形、色がそれぞれ異なる16本の木製ペグを分類したり、数えたり、ボードに押し込んだりして遊ぶ知育玩具です。一見シンプルな仕様に見えますが、いろいろな遊び方や学びがあります。あれこれ試行錯誤する中で「順番」「秩序」を理解することにもつながります。



## 絵本 いろいろバス

「あかい バスが やってきました」  
「きいろい バスが やってきました」  
「みどりの バスが やってきました」

バスからおりるのは だあれ？バスにのるのは なあに？  
色とりどりのバスに乗り降りする、あんなモノや、こんなモノ。思わずクスッと笑っちゃいます。  
最後のページには、えーっ！とびっくりぎょうてん！！  
ユーモアたっぷり、おしゃれな色あそび絵本です。



## 絵本 おやすみなさいコッコさん

夜です。みんな眠っています。起きてるのはお月さまだけだと思ったら、まだひとり、眠っていない子どもがいました。コッコさんです。お月さまが語りかけます。「そらのくもねむったよ」。でも、コッコさんは言います。「そらのくもがねむってもコッコはねむらないもん」。「いけのみずだってねむったよ」。「いけのみずがねむってもコッコはねむらないもん」……。いつまでも寝たくないと言いはる子どもにやさしく静かに語りかける絵本です。



## うた わらべうた

YouTube このトイChで紹介しております。  
QRコードからご確認ください。

